

～家族のきずなを深め、地域で「家庭」を支える県民ぐるみの運動～

**「ひょうご家庭応援県民運動」だより VOL. 18****ひょうご家庭応援県民運動とは**

県民一人ひとりが家族・家庭の大切さを考え、きずなを深めるとともに、地域全体で多世代が交じり合い共に支え合う『地域三世同居』の実現をめざし、地域で家庭を支える多様な取り組みを推進しています。

**介護の問題を家族で話し合う機会 努めて設けるようにしませんか**

県が行ったアンケート調査『ひょうごのユニバーサル社会づくりと介護について』では、「介護する上で（または将来介護をする場合に）困難や不安を感じる」として、金銭の負担が大きいことが70%を越え、経済的な不安が最も大きいとの結果がでました。また、「自分自身／家族について、自宅と施設どちらでの介護を望むか」では、介護を望む場所としては、いずれも施設が40%を越え、自宅は30%程度にとどまっています。単身世帯の増加やいわゆる老老介護などの在宅介護を取り巻く厳しい状況が影響しているものと推測されます。

高齢化社会をむかえた現代、介護をする人、介護をしてもらう人、親・兄弟の家族同志がこの問題を避けずにきちんと向き合っ、介護についての共通の意識を持つことが大事ではないでしょうか。

介護する上で（または将来介護をする場合に）困難や不安を感じる

金銭の負担が大きいこと	介護の身体的な負担が大きいこと	介護がいつまで続くか分からないこと	自分の時間がなくなること	常に気持ちを張り詰めていなければならないこと
75.3%	69.8%	62.4%	48.5%	35.1%

自分自身／家族について、自宅と施設どちらでの介護を望むか

自分自身		家族	
自宅での介護	施設での介護	自宅での介護	施設での介護
26.7%	47.6%	30.2%	43.8%

出展：県民モニター「第1回アンケート調査」  
県広報課広聴室調査（H26.4.17～5.7実施）

**第7回（平成26年度）「家族の日」写真コンクール  
あなたの作品を募集しています**

家族のきずなを深めるきっかけづくりを進める「家族の日」運動の一環として、「家族の日」写真コンクールの作品を募集します。

9月30日（火）までに所定の応募票を作品の裏に貼付し、下記「ひょうご家庭応援ネットワーク会議事務局（兵庫県男女家庭課）」へ郵送または持参してください。

兵庫県知事賞ほか入賞者3名及び入選者10名には、副賞を贈呈します。

詳しくは、「兵庫県 家族の日 写真コンクール」で検索してみてください。または下記のアドレスで検索してください。

[https://web.pref.hyogo.lg.jp/ac15/ac15\\_000000450.html](https://web.pref.hyogo.lg.jp/ac15/ac15_000000450.html)

**ストップ・ザ・無縁社会 全県キャンペーンを進めています**

家族のとらえ方が変わってきている現在、ひょうご家庭応援ネットワーク会議に参画している団体からそれぞれのお立場での家族・家庭についての思いや考え方を順次紹介することとしました。

3回目は、社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会 会長 武田政義さんにご寄稿いただきました。

## 社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会

兵庫県社会福祉協議会(県社協)は、「県内の地域福祉を進める力を結集し、私たちがめざす福祉社会づくりを進めること」を使命に掲げてさまざまな活動を展開しています。その中でも、現在特に重点的に取り組んでいるのが、「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンです。

近年、わが国では社会の成熟化に伴い価値観の多様化が進み、少子高齢化や核家族化による家族の小規模化や、結婚に対する若者の意識の変化、家庭内でのコミュニケーションの希薄化などの要因が重なり合うことで、家族・家庭のありようが大きく変化しつつあります。

家族や社会から孤立していく人が急速に増え、孤立死などが発生する社会状況は「無縁社会」として報道され、私たちに大きな衝撃を与えました。

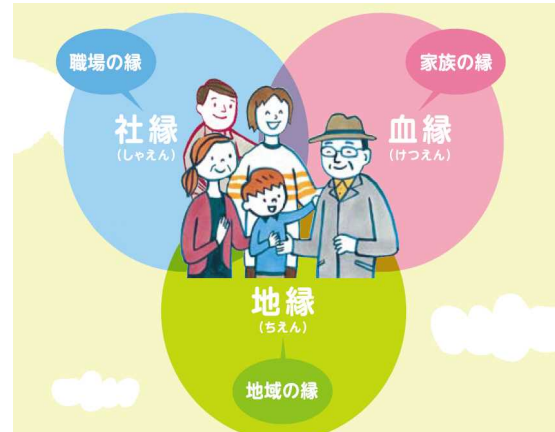
国では社会保障制度改革が進められていますが、社会保障・社会福祉制度の根底を支えるものは、何よりもまず家族の絆をはじめとした地域・職場など多様な人々のつながりや助け合いです(図参照)。

これらの絆やつながりがあるからこそ、安心・安全な地域社会を築けるのではないのでしょうか。

そのためには、私たち一人ひとりが家族・家庭の役割を問い直し、人と人が支え合える社会の実現に向けて、自らにできることから絆をつなげていくことが大切です。

本キャンペーンは、「無縁社会」への警鐘を鳴らし、これらの課題を共有して一歩を踏み出していくための取り組みです。本会の会員である市町社協や民生委員・児童委員に加え、県内の福祉・経済・労働など分野の異なる多くの推進団体とともに、情報発信や地域フォーラムなどの活動を県内各地で展開しています。趣旨に賛同いただける場合は、専用ホームページ(<http://stop-muen.jp>)をご覧ください、ぜひこれらの活動にご参加ください。

兵庫県社会福祉協議会 会長 武田政義



【図】 私たちを支える3つの「縁」

### — 編集後記 —

第1次ベビーブームといわれる昭和20年代初頭、女性が一生涯に出産する子どもの数、いわゆる合計特殊出生率は4人を上回っていました。一組の男女が結婚し、子育てを経ていずれ自らが老いを迎える時、孫の代を含めると40人の血の繋がった若い世代が、一組の老夫婦を見守るという構造でした。ところが本県の平成25年の合計特殊出生率は、1.42人。孫の代まで含めても10人前後の若い血縁者で老夫婦の面倒を見なくてはならないという構造になっています。

少子化や高齢化の問題は、このように家族や家庭といったこれまで血縁によって支えられてきた社会構造に大きな変革を迫っています。介護保険制度は、高齢者の介護、見守りを社会全体の負担で実現するため、平成12年度からスタートしました。制度の施行以降、高齢者の自殺が減少傾向にあるという事実は、この制度の果たした成果の一つとして私たちはしっかりと認識する必要があるでしょう。

県社会福祉協議会が取り組んでおられる「ストップ・ザ・無縁社会」キャンペーンは、我が国の将来を見据えて今、何が大切かを問いかけ、私たち一人一人がしっかりとそのことについて考えるきっかけを与えてくれる極めて大切なものだと思います。

一朝一夕に解決できる課題ではないからこそ、次の世代に明るい未来を繋ぐため、今、私たちに何ができるか、そのことをともに考え、行動したいと考えています。

(T.S)

作成・発行：ひょうご家庭応援ネットワーク会議(こころ豊かな美しい兵庫推進会議・家庭応援団)

[http://web.pref.hyogo.lg.jp/ac15/ac15\\_000000275.html](http://web.pref.hyogo.lg.jp/ac15/ac15_000000275.html)

問い合わせ先：ひょうご家庭応援ネットワーク会議事務局(兵庫県健康福祉部こども局男女家庭課家庭応援班)  
〒650-8567 神戸市中央区下山手通5-10-1 TEL 078-362-3169 FAX 078-362-3891

E-mail [danjokatei@pref.hyogo.lg.jp](mailto:danjokatei@pref.hyogo.lg.jp)